

# 平成25年度学校評価結果分析と改善方策（教職員）

岩手県立宮古工業高等学校

1 回収率 100% (41/41)

## 2 総評(全体の傾向)

P T A、同窓会、地域の皆様等のご尽力と、生徒及び教職員の努力により、保護者・地域に信頼される学校としての本校の地位は確かなものになった。今後とも生徒一人ひとりの心のケアに十分配慮しつつ、工業高校の良さや生徒の活躍を保護者や地域に対して効果的に発信していかねばならない。そして、本校が今後より一層飛躍するためには、生徒一人ひとりが、学習及び生活の両面で、基礎・基本をより一層確実に身に付けることが必要不可欠である。これは、従前から「宮古・下閉伊モノづくりネットワーク」に所属する企業の方々から要望され続けてきたことでもある。本校は津波被災校として、これまで全国から多くの支援を受けながら積極的に復興交流事業に取り組んできた。その過程で学校の施設設備が順調に復旧し、十分とは言えないまでも学校が被災前の状態に戻りつつある現在、数多くの困難を克服し、時には無理難題に顔色一つ変えずに黙々と取り組んできた教職員の多忙化解消も含めた職場環境の改善にも取り組む必要がある。また、今年度の卒業生は、東日本大震災直後に本校に入学し、教職員の献身的な指導の下、進路達成100%はもとより、「奉仕活動による地域貢献」、「復興交流事業」、「学校間交流」、「部活動」、「各種コンテスト」などにおいて各方面から高い評価を受けてきた生徒たちでもある。このような生徒の活躍により、本校はまさに復興のシンボルとして全国にその名を馳せたといっても過言ではない。

宮古工業高校は今年度「創立40周年」を迎えた。未来に向け、そして復旧・復興にかける生徒達の強い志を胸に、本校にとっての「復興」とは、多くの課題を乗り越え今まで以上の学校を創ることを教職員一同肝に銘じ、生徒や保護者、同窓生、そして市民及び県民の皆様への期待に応えられる教育を推進して参りたい。

重点目標	具体的目標等	課題	改善方策等
信頼される・地域に 保護者・地域に	1 奉仕活動による心豊かな人間性を育む	クリーン作戦の工夫 一過性の行事に終わりがち	クリーン作戦の次の一手を考える。(標語の募集、広報に掲載等) 奉仕活動の記録をビデオに記録し高文連等で活用する。 各種大会で学校の取り組みを紹介する。 挨拶の励行、マナーやルールを守る。
	2 外部からの協力依頼への積極的対応	件数は減少傾向にあるが対応には一考が必要	支援される側の視点を適時・適切に発信する。 依頼事業の精選及び内容を十分に吟味する。 偏りのない仕事の分担や組織としての対応を心がける。
	3 家庭との連携を深め一人ひとりを大切にしたい心のケア	家庭との連携を取れないケース	ケーススタディ研究会あるいは情報共有の機会をもつ。 家庭との情報交換を密にし信頼関係を深める。 生徒理解に努め必要に応じて関連諸機関との連携を行う。
	4 保護者・地域への情報発信、学校評価のニーズを反映	学年 P T A の参加率が低調 保護者や地域へのより一層の情報発信 中学校卒業予定者数の減少に向けた取り組み	一斉配信メールを有効に活用するなど情報発信方法を工夫する。 中学校へ工業高校と生徒の活躍等を効果的に周知する。 宮古・下閉伊モノづくりネットワークとの連携を深める。
基礎学力の 向上	5 主体的に授業に取り組む姿勢・態度の育成	育成方法の創意工夫	生徒理解をベースに一人一人の目標をより具体的に設定する。 生徒が達成感を味わうことができるよう工夫する。 各種研修や互見授業等を通して指導力向上に努める。 基礎学力向上の取り組みを継続する。
	6 生徒の実態に応じたわかる授業の展開	生徒のレベル差に対応した授業	個別指導の充実や教材研究をより一層深める。 各種研修や互見授業等を通して指導力向上に努める。 学校教育室の指導主事や教育センターの研修指導主事を活用する。
	7 適切な課題等による家庭学習の習慣化	基礎学力不足 学習意欲が低い 学力の分析と適切な指導	担任、教科、教務等で連携し、情報を共有しつつ、授業と家庭学習の連携について有効な指導法や適切な課題等について引き続き改善策を検討する。(振り返り学習等についても見直しを進める。) 小学校・中学校との連携や県内外の先進校の視察等を行い研修を深める。
	8 朝読書と落ち着いた学習に臨む雰囲気づくり	朝読書の意義や実施方法の再点検 「読む」段階から「書く」「話す」段階への移行	朝読書の意義を生徒に理解させることや課題設定などを工夫する。 学んだことを活用し課題解決ができる経験を数多くもたせる。
基本的な生活習慣と 社会規範の醸成	9 生徒指導の徹底(非行防止、整容指導、挨拶の励行、時間厳守)	日頃からのよびかけ 整容指導の徹底	毎日の指導や各種研修を通して担任力の向上に努める。 保護者の協力を得ながら教職員全員の共通理解の下に整容指導等を行う。
	10 H R ・生徒会活動・部活動を通して人格形成	諸活動への積極的な参加	学校行事、学校間交流そして各種大会等を通して生徒一人一人が自分の役割を自覚し確実に実行することができるよう支援する。
	11 教育体制充実等による不登校や退学者の防止	組織としての対応がより一層必要	生徒一人一人の悩みや課題を早期に発見し、教育相談や関連諸機関との小中学校や地域との連携を密にする。 生徒の動向の観察と情報共有を密にする。
	12 安全な学校生活(交通ルール、人命尊重)	教職員全員での指導	家庭、学校、地域が連携した指導体制を維持発展させる。 教職員が連携し小さなことを見逃さない指導体制を確立する。
	13 8 S の徹底による学習環境づくり	8 S の周知 8 S の徹底	標語等を校内に貼り出す。 放送委員会を積極的に活用する。 H R の整理整頓を確実に実行する。
	14 健全育成に係る外部講師の招聘	招聘は順調であり継続性が必要	関係諸機関(生活安全課、教育センター、県教委等)を積極的かつ効果的に活用する。
進路意識の 早期育成と 進路実現	15 きめ細かい進路指導の展開	指導展開は良好であるが進学指導の工夫が必要	的確な進路指導計画に基づき、担任・各科・学年団・進路指導課等が密接に連携し、適時・適切な進路指導を行う。
	16 早期の目標による全員の進路実現	早期目標確立に向けた指導(一部の生徒)	家庭との意思疎通を図りながら個別指導を充実させる。 就職動向、経済情勢、地域のニーズ等を的確に分析し情報提供する。 担任や進路指導課を中心に有効適切な指導を綿密かつ継続的に実行する。
	17 外部や地域との連携で職業観・勤労観の育成	連携は良好であり継続性が必要	産業支援センター、宮古・下閉伊モノづくりネットワーク等の外部講師を有効に活用し生徒及び保護者の進路意識の向上・育成に努める。
	18 資格取得の充実により向上心や目的意識を育成	生徒の意識の変容	資格取得ではその過程が大切であることを理解させる。 資格取得のための指導方法の工夫や講習会等を充実させる。
	19 卒業生の定着状況の把握と活用	早期離職対策(一部の卒業生)	卒業後も定期的に本人や企業と連絡を取り合い情報を収集する。 その情報を3年生にフィードバックする。 収集した情報を早期離職対策に有効に活用する。
明るく いきいきとした 職場	20 教職員の協働と融和で明るい職場の構築	適切な仕事の分担 仕事に対する教職員の共通理解	面談等で仕事の分担、進捗状況を適切に見極める。 ポジティブな発言と適切なコミュニケーションを心がけてストレスが溜まらないよう工夫する。
	21 事務室との連携で円滑・適正な校務処理	更新等の適時・適切な処理 施設・設備の定期的な点検と迅速な対応	引き続き連携を密にし進める。
	22 多忙化解消(スクラップ・アンド・ビルド)	仕事量の増加 スクラップすべき仕事の見直し	常に仕事の効率化と見直しを図り多忙化解消の取り組みを行う。 教職員の共通理解をベースに進める。
	23 職員の綱紀保持(コンプライアンス)	コンプライアンス全般に関する偏りのない理解 綱紀保持の誓いを引き続き堅固なものにする努力	要望等を踏まえて研修内容を検討し開催時期等を適切に配置する。 安全点検の日、校内研修会、朝会等を引き続き有効に活用する。